# 大分大学教職大学院
# 教職大学院教員と大分県指導主事とが共に学ぶ研修の実施
## （研修事業名：「よりよい研修を通して，よりよい学校づくりを支援する」）

### 研修の目的：

「学び続ける教員像」の実現に向けて，教職大学院には今後ますます地元教育委員会や学校等との連携・協働が求められる。その実現に向けた取組として，令和5年度も大分県教育委員会と連携し，指導主事等との課題意識の共有を図ることを目的とした。

### 研修の内容：

教育人事課と打合せを重ね，「学校へのICTの導入」，「令和の日本型学校教育の姿」，「学校改革・改善の実例」に絞り込んだ。それぞれ日本の先端を走る実践者（自治体）と研究者に，事例や最新の知見・取組を提供していただいた。

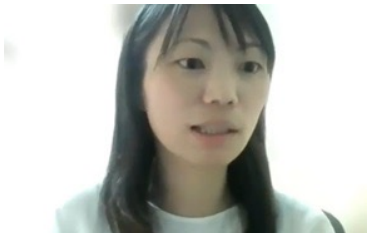
### 日程・参加者等：

令和5年10月から12月に3回，それぞれ報告30分，交流10分とした。リアルタイムとオンデマンド（収録動画の配信）を組み合わせた。受講者数は教職大学院教員17名，現職院生6名，指導主事等142名であった。（受講延人数はこの3倍）

### 成果と課題：

教育人事課との連携により，県内の指導主事等の参加（悉皆研修）が得られた。受講者から「短時間での質の高い研修に感謝している」「業務に影響の出ないオンデマンドは受講しやすい」等の感想を多数寄せられた。

本研修は教職員支援機構の「NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」に採択されて実施したものである。



大坪聡子指導主事（つくば市教育委員会）

学校教育へのICT導入は，つくば市内全ての学校で行っている（目指している）が，導入が目的化しないように，常に「未来を生きる子どものために学校ができることは何か」について心がけている。

貞広斎子教授（千葉大学）

教員の職能開発という課題は難しい側面があり，そこには常に「学ぶ側（教員）」と「学ばせたい側（教育委員会）」（場合によっては，無理解な社会が批判的に「学ばせたい側」に立つことも）の対立がある。一方で，社会への説明責任も重要で，これをもって教員の専門性が存立している側面もある。

佐古秀一学長（鳴門教育大学）

教員や学校は他律的に改善が求められることが多いが，内発的改善こそがよりよい学校の姿に通じる。その際に「根っこ」の課題が何であるかを突き止めることが重要であり，それを校内で検討し，構造化・可視化するための様式をもとに取り組んでいる。（高知県の小学校の事例）